

# コミバスの利用策考える

## 北大大学院 岸准教授、浦幌中で授業



公共交通の問題点などを生徒に説明する岸准教授（左）

【浦幌】町生活交通ネットワーク計画協議会委員を務める北大大学院交通イン

テリジェンス研究室の岸邦宏准教授が、浦幌中学校で公共交通に関する授業を行

い、3年生に対して21日から町内で試験運行するコミユニティーバス(コミバス)の利用促進策の課題を投げ掛けた。生徒は11月29日の「町おこし発表会」でアイデアを発表する。

岸准教授は、ふるさとづくり計画「うらほろスタイル」に関心を持ち、町内で開かれたシンポジウムのため来町した機会を生かして「10年後の地域の未来を担う中学生に、地域の公共交通を考えてほしい」と、9月27日に授業を行った。

授業では、公共交通としてのバスが赤字運営に陥っている背景や、バス会社へ補助金を投入している自治体も財政に余裕がないことを説明した。

バス停まで遠い、便数が少ないなどバスの人気が振るわない理由や、岸准教授の研究室がコミバスと併せて中心市街地に開設する

「コミユニティーカフェ」について紹介した。生徒への課題は①どうすれば町民がバスを利用してくれるか②バスに愛着を持つてもらうにはどうするか

の2点。岸准教授は「これからは地域の人が公共交通を支える仕組みづくりが求められる。住民が公共交通を利用し、利用促進のためのアイ

デアを出すべきだ」と語った。受講した谷川あやめさんは「コミバスを活用すれば街を活性化できそうだ」と話した。(平野明)

十 勝 毎 日 新 聞

2013年(平成25年)10月6日(日曜日)